



コロナ危機を乗り越えて 希望の年に

いのちと暮らし最優先の市政をめざします

誰もが自分らしく 大切にされるまちを

長引くコロナ禍で、女性に負担がかかっています。福祉や介護職の多くが非正規雇用の女性で、男女の賃金や待遇格差も大きく、苦境に立たされています。大津市職員の半数を占める非正規職員も8割が女性です。格差の解消、性自認を含め多様性の尊重、障害のあるなしにかかわらず一人一人が大切にされる社会へ、課題に正面から取り組む市政を求めていきます。

昨年も国政では、桜を見る会など政治の私物化、学問の自由を脅かす学会議会員の任命拒否など強権政治が続き、国民の声を聞かないためコロナ対策も後手後手です。民主主義の破壊が国民生活を深刻にしています。

市民の声に 誠実に応える市政こそ

大津市でも公共交通の確保を地域まかせにしたり、不法投棄問題でも市民の声に応える姿勢が見えません。民主的で憲法を生かす市政の実現へ、全力を挙げます。

昨年は、世界中が新型コロナウイルスで深刻な影響を受けました。不安と同時に、社会のあり方を問い直す声も高まり、日本共産党は「新しい日本をつくる5つの提案」を発表しました。党市議団は大津市でもこの提案を生かし、市民を守る役割を果たす市政をめざして、今年もがんばります。

たてみち秀彦

柏木けい子

杉浦とも子

小島よしお

林まり

歴史的な核兵器禁止条約が1月22日に発効されました。一方で、大津市では爆音をたてて米軍のオスプレイが飛び、自衛隊のヘリコプターも連日、低空を飛行。唐崎の駐屯地周辺では迷彩色の大型トラックが通学時、夜間に走っています。市民の安全安心を守るために、国に対してもきっぱりとモノを言う市政、平和のために核兵器廃止を発信する市政をめざしてがんばります。

平和で安全な大津を 子どもたちに

コロナ禍を通して、自己責任や効率優先では住民の命を守れないことが、はっきり示されました。大津市では行革優先で市民サービスが削られています。

福祉に手厚く! いきいきと暮らせる大津へ

医療・介護・障がい福祉・保育などケアに手厚くしながら社会保障の負担を減らし、疲弊した地域経済立て直しの柱として中小業者や農業を応援して、市民の暮らしを支える市政の実現へ、元気に取り組んでいきます。

大好きな大津の自然と 共生する社会を

気候変動も感染症の問題も、原因である地球の環境破壊を止めることが急務です。市は発電設備を備えた新ごみ焼却施設の稼働に伴い、プラごみを分別せず燃やすことも検討。ごみ発電はリサイクルと言えず、燃やせばCO₂の排出量が増えます。市民とともに学び、ごみ減量やオーガニック農業の振興、地産地消の推進など環境を守るための運動を広げていきます。